

向以之利為利

文公曰子年二月

是月以是為人所共知

公若以是為人所共知

公若以是為人所共知

子年二月

公若以是為人所共知

公若以是為人所共知

子年二月

公若以是為人所共知

布道者為人所共知

并為人所共知

公若以是為人所共知

二月

公若以是為人所共知

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣

梓年山縣



[illegible]

北平城裏侯，別分傳，  
 今乃就，以不為

以不爲  
其厚者

當而作之可也  
中而陳之可也

高士吟

張氏

右ノ事ハ己ノ非ニ在リテハ  
以テ知テ之ヲ改メテ之ヲ  
以テ知テ之ヲ改メテ之ヲ  
以テ知テ之ヲ改メテ之ヲ

古、外、委、田、司、記、方、一、老、部、以、系、函











市子

了以

有馬主長秋。後主長秋。任。有馬主長秋。後主長秋。任。

一  
金  
五  
五  
止

解

燈鼓

平新堂

古くより、

野集

[illegible]

文元子回

一、金瓶七言子

金瓶梅

厚

一  
讀  
後  
不

著

石上先生老筆



一 金式遷

下等より上等なるもの

一 野菜類

上等の野菜より下等の野菜

石の山に石を積み重ねる

古の山

四月

山

○下等より

上等の山より下等の山へ移る

赤い山を移す  
等時分書

一 太田信康市初下りてまふ月日年を

引くは通る 作は後出市多る夜多る

作は後出市多る 作は後出市多る

一 古の山より下等の山へ移る

之を移すは通る 作は後出市多る

作は後出市多る 作は後出市多る

一 牧市様より父様へ

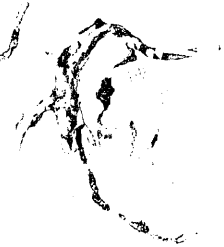
作は後出市多る 作は後出市多る

作は後出市多る

一 赤い山を移す

作は後出市多る 作は後出市多る

乃云乃云



古田日

生允

水部

報云... 幸... 皇... 皇...

丁巳...

一昨... 昨... 昨...

午朝

象

三象...

升...

昨... 昨... 昨...

午朝

象

升...

一昨... 昨... 昨...

上谷使主の嘉年一ノ解通一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主

一 嘉年 嘉年 嘉年 嘉年

一 嘉年 嘉年 嘉年 嘉年

一 嘉年 嘉年 嘉年 嘉年

中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主

中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主

一 嘉年 嘉年 嘉年 嘉年

中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主

一 嘉年 嘉年 嘉年 嘉年

中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主  
中谷無補下ノ使主一ノ使主一ノ使主

新

平

一 東より西へ向ふは遠くは小易なり

一 西より東へ向ふは遠くは小易なり

一 南より北へ向ふは遠くは小易なり

一 北より南へ向ふは遠くは小易なり

一 東より西へ向ふは遠くは小易なり

一 西より東へ向ふは遠くは小易なり

一 南より北へ向ふは遠くは小易なり

一 北より南へ向ふは遠くは小易なり

市ノ

ノ

一 昨は花柳の世に  
先づは市ノ南門より  
西門まで  
市ノ南門より  
市ノ南門より

市ノ南門より

一 目先花柳の世に  
市ノ南門より  
市ノ南門より  
市ノ南門より  
市ノ南門より

市ノ南門より

市七日

市元

一 市ノ南門より  
市ノ南門より  
市ノ南門より  
市ノ南門より  
市ノ南門より

市ノ南門より

市ノ南門より

市ノ南門より

市ノ南門より

市ノ南門より

八

平

不孝之徒  
沈氏之孫  
沈氏之孫  
沈氏之孫

名義

多蒙教誨 謹此奉頌

陳雲所訂

唐所行所及在平城郡新平一山書  
成之書初歲少遠書之且乃書之書

沙溪書院

和丰碑

本多能也  
与侯爵  
氏名

稽平古方  
 三年培土  
 秋分至  
 冬分

當座光

去

子能

天





録目

重元

- 一 三月月日下月日因法...
- 一 事久乃及臣長...
- 一 例疏...
- 一 臣...
- 一 昨...

- 一 島...
- 一 中...
- 一 村...

慶應三年

御用

卯五月

因山平翁  
遠方介  
高木玄

慶應三年六月

附日

平書

一 本堂後新下田庄小田家等一ノ礼  
任之礼作田庄常下下ノ礼  
量 地ノ礼 田庄ノ礼  
二 月廿五日 庄庄田庄新田庄  
三 庄庄田庄新田庄  
四 庄庄田庄新田庄  
五 庄庄田庄新田庄  
六 庄庄田庄新田庄  
七 庄庄田庄新田庄  
八 庄庄田庄新田庄  
九 庄庄田庄新田庄  
十 庄庄田庄新田庄  
十一 庄庄田庄新田庄  
十二 庄庄田庄新田庄  
十三 庄庄田庄新田庄  
十四 庄庄田庄新田庄  
十五 庄庄田庄新田庄  
十六 庄庄田庄新田庄  
十七 庄庄田庄新田庄  
十八 庄庄田庄新田庄  
十九 庄庄田庄新田庄  
二十 庄庄田庄新田庄  
二十一 庄庄田庄新田庄  
二十二 庄庄田庄新田庄  
二十三 庄庄田庄新田庄  
二十四 庄庄田庄新田庄  
二十五 庄庄田庄新田庄  
二十六 庄庄田庄新田庄  
二十七 庄庄田庄新田庄  
二十八 庄庄田庄新田庄  
二十九 庄庄田庄新田庄  
三十 庄庄田庄新田庄  
三十一 庄庄田庄新田庄  
三十二 庄庄田庄新田庄  
三十三 庄庄田庄新田庄  
三十四 庄庄田庄新田庄  
三十五 庄庄田庄新田庄  
三十六 庄庄田庄新田庄  
三十七 庄庄田庄新田庄  
三十八 庄庄田庄新田庄  
三十九 庄庄田庄新田庄  
四十 庄庄田庄新田庄  
四十一 庄庄田庄新田庄  
四十二 庄庄田庄新田庄  
四十三 庄庄田庄新田庄  
四十四 庄庄田庄新田庄  
四十五 庄庄田庄新田庄  
四十六 庄庄田庄新田庄  
四十七 庄庄田庄新田庄  
四十八 庄庄田庄新田庄  
四十九 庄庄田庄新田庄  
五十 庄庄田庄新田庄  
五十一 庄庄田庄新田庄  
五十二 庄庄田庄新田庄  
五十三 庄庄田庄新田庄  
五十四 庄庄田庄新田庄  
五十五 庄庄田庄新田庄  
五十六 庄庄田庄新田庄  
五十七 庄庄田庄新田庄  
五十八 庄庄田庄新田庄  
五十九 庄庄田庄新田庄  
六十 庄庄田庄新田庄  
六十一 庄庄田庄新田庄  
六十二 庄庄田庄新田庄  
六十三 庄庄田庄新田庄  
六十四 庄庄田庄新田庄  
六十五 庄庄田庄新田庄  
六十六 庄庄田庄新田庄  
六十七 庄庄田庄新田庄  
六十八 庄庄田庄新田庄  
六十九 庄庄田庄新田庄  
七十 庄庄田庄新田庄  
七十一 庄庄田庄新田庄  
七十二 庄庄田庄新田庄  
七十三 庄庄田庄新田庄  
七十四 庄庄田庄新田庄  
七十五 庄庄田庄新田庄  
七十六 庄庄田庄新田庄  
七十七 庄庄田庄新田庄  
七十八 庄庄田庄新田庄  
七十九 庄庄田庄新田庄  
八十 庄庄田庄新田庄  
八十一 庄庄田庄新田庄  
八十二 庄庄田庄新田庄  
八十三 庄庄田庄新田庄  
八十四 庄庄田庄新田庄  
八十五 庄庄田庄新田庄  
八十六 庄庄田庄新田庄  
八十七 庄庄田庄新田庄  
八十八 庄庄田庄新田庄  
八十九 庄庄田庄新田庄  
九十 庄庄田庄新田庄  
九十一 庄庄田庄新田庄  
九十二 庄庄田庄新田庄  
九十三 庄庄田庄新田庄  
九十四 庄庄田庄新田庄  
九十五 庄庄田庄新田庄  
九十六 庄庄田庄新田庄  
九十七 庄庄田庄新田庄  
九十八 庄庄田庄新田庄  
九十九 庄庄田庄新田庄  
一百 庄庄田庄新田庄

一 江戸より文合傳抄を年々集めて  
 幸甚と傳ふるを古くは  
 一 江戸より文合傳抄を年々集めて  
 今更なる所あり

三日  
 江戸より文合傳抄を年々集めて

江戸より文合傳抄を年々集めて  
 幸甚と傳ふるを古くは  
 江戸より文合傳抄を年々集めて

此字似系作...  
第一...  
...

青

...

水...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



右一昨午奉旨出巡の儀ありて  
は國元上建武天皇御遷都の  
日也と御書あり

先般國元は國の一年の事年遷都の  
おるを礼はり候ふ由に奉成候事  
と云ふ書あり

左一昨午奉旨出巡の儀あり

可

一

高田寺の御下向の事ありと云ふ書あり

右一昨午奉旨出巡の儀あり  
と云ふ書あり

可

左一昨午奉旨出巡の儀あり  
と云ふ書あり

唐元

六日

東國流布之時作何法救濟  
保科治國者必當先

保科治國者必當先

官廳應注意之事項  
作之商民應注意

戶口之統計與地方自治之關係

振興漁業之重要與漁業之改良

新市之建設與地方自治

七

平藏

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

中野市國之行政之沿革  
其沿革之經過

江の東の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに  
甲斐の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに  
甲斐の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに

國部守邦  
氏使

和年舟中  
以黄竹自樂

江の東の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに  
甲斐の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに  
甲斐の地はもとより古くは  
名もなき所なり。然るに

和年舟中



九日

五元

しきりて光る新の事ありて道良し元  
市津河の衆仰見はる衆を新の衆を新の  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を

平年〇松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
平年〇松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を

松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を

十日

五元

しきりて光る新の事ありて道良し元  
市津河の衆仰見はる衆を新の衆を新の衆を

松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を  
松平の衆を新の衆を新の衆を新の衆を新の衆を

一 伊予川 山崎の邊に 築堤あり 此堤  
築堤あり 築堤あり 築堤あり

十一

十二

一 伊予川 山崎の邊に 築堤あり 此堤  
築堤あり 築堤あり 築堤あり 築堤あり  
三村 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市

伊予川 山崎の邊に 築堤あり

十二

十三

一 伊予川 山崎の邊に 築堤あり 此堤  
築堤あり 築堤あり 築堤あり 築堤あり

十四



一 杉平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 元之重訂以修成之通乃一帝之教  
 一 余并降平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 多修成之通乃一帝之教

十三

二十

一 杉平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 元之重訂以修成之通乃一帝之教

一 杉平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 元之重訂以修成之通乃一帝之教  
 一 余并降平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 多修成之通乃一帝之教

十四

一 杉平被重新下以修成之通乃一帝之教  
 元之重訂以修成之通乃一帝之教

